

略歴

昭和 8年 三重県津市高野尾町に生まれる (11月9日)
昭和24年 高田中学校卒業。以後、農業に従事
昭和31年 第1回カリフォルニア農業研修生として3年間渡米
昭和36年 赤塚植物園を創業
昭和47年 (株)赤塚植物園を設立 代表取締役社長に就任
(有)ブラジル赤塚植物園を設立
昭和49年 (株)ハワイ赤塚植物園を設立
昭和59年 赤塚物産(株)を設立 代表取締役社長に就任
(のちに(株)赤塚に社名変更)
水の機能性に関する技術研究を開始
平成 4年 FFC製品愛用者組織カトレア会を設立
(現在のフィランソ)。以後、全国各地でFFCの
講演活動を行い組織を拡大
平成 7年 (株)エフエフシー・ジャパンを設立 代表取締役社長に就任
平成14年 アカツカナーセリー・タイランドを設立
平成17年 中部国際空港開港に伴い高速船「カトレア」を寄贈し
海上アクセスに協力
愛知万博に巨大緑花壁「バイオラング」オフィシャル
パートナーとして協賛し、FFCテクノロジーを提供
平成23年 赤塚植物園グループ3社 代表取締役会長に就任
平成25年 「鈴鹿の森庭園」を試験開園 (翌年、正式開園)。以後、
「赤塚シャクナゲガーデン」、「レッドヒル ヒーサーの森」
等を開園
(株)フューチャー・ファーム・コミュニティ三重
(「朝津味」運営会社) 代表取締役に就任

民間団体歴

昭和34年 三重県国際農業者交流協会 副会長
昭和38年 高野尾園芸組合 初代組合長
昭和41年 高野尾洋ラン組合 初代組合長
昭和41年 高野尾農業協同組合 理事
昭和41年 農事組合法人高野尾園芸センター 初代理事長
昭和43年 三重県花卉振興会 副会長
昭和45年 三重県植木振興会 初代会長
昭和47年 三重県洋ラン生産組合 初代会長
昭和47年 三重県シャクナゲ生産組合 初代組合長
昭和47年 三重県花植木振興会 副会長
昭和48年 三重県グリーンクラブ 初代会長
昭和50年 財団法人三重県海外協会 理事
昭和52年 三重県指導農業士

主な表彰歴

昭和55年 ブラジル・サンパウロ州オザスコ市より
名誉市民権を授与される
昭和57年 三重県より表彰状 (花き植木振興への貢献)
昭和58年 第42回中日農業賞にて農林水産大臣賞を受賞
第22回農林水産祭園芸部門にて天皇杯を受賞
昭和61年 ブラジル・サンパウロ州より文化功労十字勲章
を授与される
平成 元年 津市より市制百周年功労の表彰を受ける
平成 3年 黄綬褒章を受章
平成12年 三重県より産業功労者として表彰される
(花植木産業への功労)
平成15年 国土交通省および財団法人地域活性化センター
より地域活性化貢献賞を受賞
平成17年 三重県より県民功労者として表彰される
(地域農業への功労)
津市より市政功労者として表彰される (農業振興、
津なぎさまちへの寄付)
平成19年 国土交通大臣より感謝状 (タイ王国チェンマイ
国際園芸博覧会の日本庭園への協力)
平成22年 津市より感謝状 (津なぎさまちの発展への貢献)
平成30年 旭日双光章を受章
令和 元年 国立大学法人三重大学より名誉博士の称号を
受ける

一人の健康から地球の未来まで

赤塚 充良のあゆみ

History of Mitsuo Akatsuka



赤塚植物園グループ創業者

赤塚 充良 (あかつか みつお)

昭和8年(1933年)11月9日 生誕
令和5年(2023年)8月2日 逝去(満89歳)

主な取り組み

- 三重県のサツキ産地化
- 洋ランの組織培養と大衆化
- 日本の気候に合うシャクナゲの育種や普及
- 「吊鉢」を通じた園芸ブームの推進
- 各種の観葉植物の輸入と国内普及
- ブラジルやハワイ、タイ等の海外農場の経営と園芸を通じた国際交流・国際協力
- 国内外の農業後継者の養成
- 動植物の機能を高める水の技術 FFCテクノロジーの研究開発
- FFCパイロゲン愛飲者の全国への拡大や各種産業へのFFCテクノロジーの普及
- 「レッドヒル ヒーサーの森」や「鈴鹿の森庭園」「朝津味」等、観光農業を通じた地域振興

花・緑・水で明るい未来へ



三重サツキ



シンビジュウム



シャクナゲ



ブライダルベール(吊鉢)



幸福の木(ドラセナ)



呉服枝垂(しだれ梅)




FFCパイロゲン




FFCの泉

赤塚充良 動画アーカイブ

FFCテクノロジー普及のため全国各地で講演活動を行ってきた赤塚充良。講演の動画や関連コンテンツをご覧いただけるようWEBページをご用意しました。



赤塚充良Officialコンテンツ集 <https://akatsuka.gr.jp/link/mitsuo>



天皇杯 (第22回 農林水産祭 園芸部門)



昭和58年11月 (50歳)



黄綬褒章

平成3年11月 (58歳)



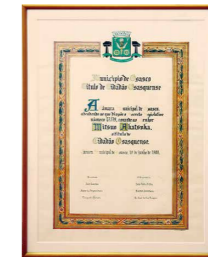
旭日双光章

平成30年4月 (85歳)



ブラジル・オザスコ市 名誉市民権
 国立大学法人三重大学 名誉博士

昭和55年6月 (47歳)



昭和31年、23歳で渡米。3年間の農業労働者としての経験により開拓精神、企業的経営、国際感覚が磨かれました。写真はサリバン農場のサリバン氏、研修仲間とともに。



昭和36年1月11日、ひさ子夫人と結婚し、同じ日に赤塚植物園を創業。写真は同年、新築した洋風の自宅を背景にひさ子夫人、弟 守康さんとともに。



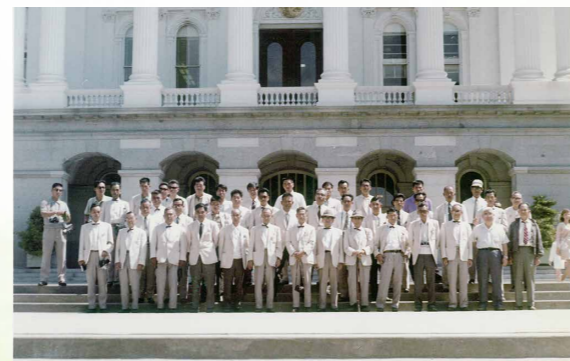
昭和59年、水の機能性の研究を開始。平成6年には東京大学・東京農業大学名誉教授の杉二郎先生(前列中央)を初代所長に迎え、生物機能開発研究所が完成しました。



平成11年、FFCパイロゲンをモンドセレクションに初出品し金賞を受賞。その後も最高金賞を連続受賞するなど、FFC製品の品質の高さを証明しつづけています。



昭和41年、洋ランの組織培養の研究を開始し、その後、国内で初めて組織培養による大量生産・商品化に成功。日本で洋ランが大衆化するきっかけとなりました。



昭和45年、サツキ生産者らとアメリカの大規模な農業経営を視察。その後、国内のサツキ需要の拡大とともに三重県は一大生産地へと発展しました。



平成16年、米国ハーバード大学とのFFC共同研究を開始。その研究成果をFFC国際フォーラム2005、2009の2回にわたり発表しました。



熊本県天草の宮野河内湾に地元の行政や漁業関係者、そして全国から多くの会員様が集結。FFCによる海の改質を目指した一大プロジェクト「ドラゴン伝説2004」にて。



ブラジル・オザスコ市への慈善活動が認められ、昭和55年、同市議会より名誉市民権を授与されました。その後もブラジルとの交流が永く続いています。



いつか天皇陛下にお会いできるような人生を、と誓い生きてきた結果、昭和55年の全国植樹祭にて昭和天皇に洋ランの組織培養の実演をご高覧賜りました。



平成17年、赤塚植物園グループは愛知万博に巨大緑花壁「バイオラング」オフィシャルパートナーとして協賛。FFC元始活水器を提供し、FFCミストが噴霧されました。



平成22年、アジアで初となるIGCA(国際ガーデンセンター協会)日本大会が開催。日本の新しい園芸の発展を支えてくださった皆様に謝意を述べました。